

## 第19回 平成27年度高知県精神科総合研究会 こうち男女共同参画センター「ソーレ」 H28.3.11(金)

「アンケート調査をもとに認知症看護の在り方を考える」  
～あなたがアルツハイマー型認知症と診断されたら～  
5病棟准看護師 前田 聡



平成28年3月11日ソーレで行われた「第19回 平成27年度高知県精神科総合研究会」において「アンケート調査をもとに認知症看護の在り方を考える ～あなたがアルツハイマー型認知症と診断されたら～」の発表を行いました。

私の看護の職歴は長いのですがこのような発表などはしたことが無く、私とは無縁な事だと思っていました。師長より依頼の話があり、引き受ける事にはなったものの本当に大丈夫なのか?と不安でいっぱいでした。しかし、やるからには頑張ろうと思いました。アンケートや資料作り、パワーポイントの作成、発表原稿の作成、発表係。研究メンバーで分擔し私は主にパワーポイント作成と発表を担当する事になりました。発表原稿ができてからは病棟スタッフにも聞いてもらい、何度も手直しを行い、看護研究の大変さを感じる事ができました。

そしていざ当日になると、適度な緊張がある感じで発表自体はますますだったのですが、一番恐れていたことが起こりました。質疑応答で最初の質問にどう答えて良いか困り、何も答えられず固まってしまいました。会場に居た研究メンバーや5病棟のスタッフ、南国病院に対して申し訳ないやら情けないやら。何とか司会の方に助けて頂きましたが、本当に参りました(°°;)。

そんなこんなでしたが、失敗は成功の元と考え、これから研究で得たことを仕事に活かして励んでいきたいと思います。また発表の機会を得て、貴重な体験ができた事に感謝します。

### 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 (JSDR) 認定士を取得して

言語聴覚療法室室長

桑原 生子



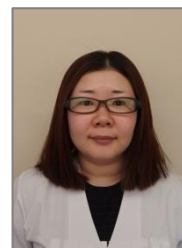
昨年度の目標に掲げたJSDRの認定士を取得できました。認定士試験に向けては学会のホームページからeラーニングの講座にアクセスして

学んでいく仕組みになっています。講座は嚥下の神経機構、評価、訓練などだけではなく、栄養、衛生、口腔ケアなど、また小児から高齢者までの嚥下障害について約80講座あり、それらの講座を自分で学び理解しなければいけません。仕事をしながらの勉強時間の確保や若い頃に比べて、記憶力、思考力、集中力の低下した頭での勉強は大変でしたが、合格できホッとしました。認定証も届き、あらためて責任の重さを感じています。学んだことを臨床に活かし、さらに新しい知識や技術の習得に励んでいきたいと思っています。

### 調理師試験に合格して

栄養部 調理師 西岡 沙織

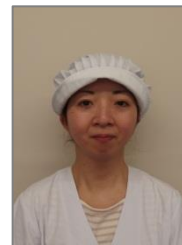
私が調理師試験を受けようとしたきっかけは、自分自身のスキルアップのためという事と、調理師の資格は取得したら一生物だという事からです。試験勉強は覚えることが沢山あって頭に入れるのが大変だったのですが、無事に合格できたので良かったです。これからは、身につけた知識を仕事でも活かして、どんどんスキルアップをしていきたいです。



栄養部 調理師 下元 和佳

調理師試験を受けようとしたきっかけは、無資格でも仕事はできますが、資格を持てば「調理員」から「調理師」という肩書きになり、精神面で自分自身に自信がつくと思ったからです。

実際働きながらの勉強は、時間をつくるのに大変でした。しかし、一発で合格したいという強い気持ちがあったので、時間を見つけては問題集や過去問を解くといった勉強をコツコツとしていました。そして、その努力が報われ、今回の調理師試験に一発で合格できて、本当に嬉しかったです。これを機に、勉強で学んだ衛生学や調理科学などの知識を活かし、仕事にも役立てたいと思います。



### 医療機器チーム 2病棟看護師 田中 真沙代



平成27年度の特記すべきは、人工呼吸器取り扱いを熟知するとし、人工呼吸器理解度評価を臨床工学技士の協力のもと実施しました。「トラブル時に予備機に変更できる」「アンビューバックの正しい扱い方を身に付ける」等、今後もスキルアップに努めていきたいと思えます。

消耗品管理においては、コスト面、安全面、使用頻度、使用方法を加味しながら行っていきたいと考えます。

医療機材滅菌の外部委託に関しては、依頼伝票記載等、以前に比べ改善傾向にあります。今後もスタッフへの意識付けを図り、取り組んでいきたいと思っています。



### 摂食・嚥下チーム 3病棟看護主任 森木 博子



平成27年度の主な活動内容は、愛媛県で開催された四国摂食・嚥下研究会への参加。お食事廻診の継続。摂食機能療法の導入について取り組んできた。

平成27年11月の四国摂食・嚥下研究会には4名が参加し、発表は言語聴覚士による1題のみで、看護からの発表はできなかった。平成28年度は当院での開催となるため、発表に向けて取り組みたい。

お食事廻診の対象事例は多くはないが、お試し食の依頼や評価はスムーズに運び、食形態の見直しができる。摂食機能療法は5病棟で導入し、3名実施した。“食べたい”という思いの強い患者さんに、病棟スタッフが間接的、直接的訓練を行い経腸栄養や中心静脈栄養から経口摂取への移行ができた。

平成28年度は、四国摂食・嚥下研究会参加。摂食機能療法の継続。マウスケアマニュアルの見直しに取り組む。

## 第5回 看護部チーム発表会 看護部チーム会活動の振り返り

### 記録チーム 2病棟看護主任 山脇 直美



記録チームでは平成28年6月に受審する機能評価に向けて活動してきました。まずは電子カルテにおける看護記録マニュアルの見直し、処置行為の入力など、病棟によって違っていたことをマニュアル通りに行う事などを話し合いました。

また、主治医から患者さんや家族に説明したことを、記録する場所が各病棟で違っていたため、ICカンファレンス欄に入力するよう統一しました。

そして、看護記録の監査をして気が付いたことをもとに、看護計画、記録、SOAPについて研修会を行いました。

ケアプロセス対策としては、入院から退院までの間に、誰がどのように関わってきたかがわかるように記録を充実させていくようにしていきたいと考えています。

次年度の取り組みとして、機能評価に向けて取り組んできたことを継続し、さらにレベルアップを図っていききたいと考えます。

### 医療安全チーム 外来准看護師 吉本 吉野



医療安全チームは、5S活動と救急カート見直しについて取り組みました。

5S活動では物品の管理、コスト削減を目標に活動してきました。具体的な取り組みとして、各病棟の整理整頓を行い、不必要物品の廃棄、清掃を実施することで在庫管理が容易となりました。救急カートについては、必要物品の見直しとカートの施錠をなくすことで、緊急時の対応がスムーズとなり、また麻薬等は新たに薬品庫を設けることで、安全性も図れるようになりました。

平成27年度は、長年検討してきた救急カートや薬品の管理の統一ができ、業務改善が図れたと思います。

5S活動は、医療安全チームが中心となり継続的に今後も活動して行きます。